

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

#### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

#### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

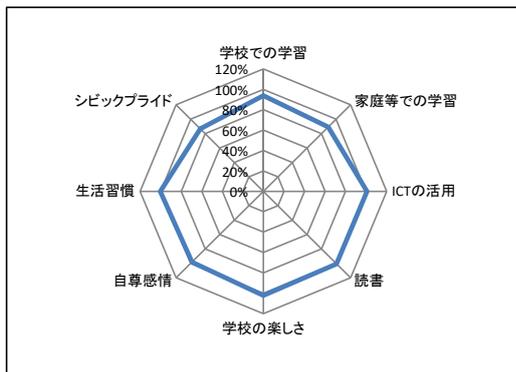
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力等の「B 書くこと」については、よくできているが、「C 読むこと」に関する問題は、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「話し合いの記録」の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する問題。「ちらし」の二重傍線部を「調べたこと」を基に詳しく書く問題。	
	努力が必要な問題	「話し合いの様子」について当てはまる内容として適切なものを選択する問題。【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「測定」「変化と関係」の領域については、できているが、「数と計算」「図形」「データの活用」については課題が見られる。問題形式別に見ると、記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く問題。数直線上に示された数を分数で書く問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域については、全国平均と同レベルにあるが、「エネルギー」「生命」を柱とする領域については課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ問題。海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ問題。	
	努力が必要な問題	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く問題。乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」との問いに肯定的な回答をしている児童が全国平均より2割ほど低かった。国語科や算数科を中心に積極的に学習に取り入れていくことが必要である。</li> <li>・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」との問いに肯定的な回答をしている児童が全国平均より1割ほど低かった。生活科や社会科、総合的な学習の中で地域のよさについて理解を深め、シビックプライドを醸成していくことが大切である。</li> <li>・平日、休日ともに家庭での学習時間が短い傾向にあった。家庭で（学年×10分程度）の学習ができるよう年間を通して粘り強く啓発していく。</li> <li>・本校では、本に親しんでいる児童が多く、昨年度に比べ500冊以上の貸出が増えた。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・国語科、算数科の基礎的・基本的な内容の定着に向けて、授業の中で習得できるよう分かる授業づくりを行うとともに、AIドリル等を効果的に活用する。  
 ・国語科の「書くこと」に関する問題、算数科の記述式の問題に課題があるため、文章を書いて表現する学習を積極的に取り入れる必要がある。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・1割近くの児童が朝食を食べていない実態をふまえ、「早寝早起き朝ごはんガイド」等を活用し、各家庭に呼びかける。さらに、学校だより、学年・学級通信等でも繰り返し伝えていく。